



No.22 学校図書館 司書だより

2015年7月

図書館クイズ

6月21日は、だれもが心を温かくしてもらった絵本「うさこちゃん」シリーズのキャラクター「ミッフィー」の〇回目のたんじょうびでした。

- ① 20回
- ② 40回
- ③ 60回

木と読書

読書と私

宮内 智鶴子

私が絵本と出会ったのは、保育園の頃だったように思う。現代のお母さんたちのように、両親からの読み聞かせではなく、

保育園での絵本や紙芝居の時間が楽しかった。いろいろな世界に疑似体験できる楽しさがあったからである。低学年になると、

簡単な物語などを作ったりした覚えがある。たしか、美人のお姫様とみにくいお姫様がいて…なんて話を作った。母に読んで聞かせるとその当時「こっつい顔のお姫様」と書いた部分に対して「みにくい」という言葉がいいよ。」なんて言われた。今思うとよく書いたなと思うが、その時に、言葉を選ぶ大切さを自然に学んだように思う。

中高校生になると、推理小説が大好きになり、シリーズ物を読破したり、仲間と展開について話題にしたりすることが楽しかった。

大学になると、研究の資料として、大学図書館の中の何万冊という蔵書の中から必要な本を探し出し、その中から必要な情報を取り出すようになった。

年齢を追うごとに、読書の種類もかわっていき、今では雑書である。

教員になってからは、「子どもたち」と一緒に読書と関わるのが多くあったが、私自身が感じた喜びを子どもたちにも伝えたいと思ってきた。

国語や社会で戦争に関する教材があれば、戦争に関する本を読み聞かせたり、本を推薦したり。また、元気づける子どもたちと関われれば、怖い話で静かに過ごす心の地よさを感じさせることもあった。感受性が鋭い子どもたちだからこそ、彼らなりに何かしらを感じて楽しみに待っていてくれた。

人は感動した事に出会うと誰かに伝えたい。本も同様で、誰かに伝えて感動を共有したい気持ちになるものである。そんな本について、語り合う楽しさを「本の紹介」で表したり、本から得られる思考の広がりや深まりを「集団読書」という形にしたり。

また、大学時代の体験からは、本を探す力や、本の中からの情報を抜き取るかをする際に、考える力が必要であることを感じた。そこで、教師が与えるばかりではなく、自分たちで必要な本を探させるようになってきた。子どもたちの力は大人が考える以上にすごいもので、一年生でも図書館か

ら自分が必要な本を何冊も持って来て授業中に紹介することもできるようになった。

今の現代、活用能力が求められている。生きる力の一つとして本を活用できる子になってくれたらと願っている。

しかし、その前に、何よりも子どもたちが自身が本を読む楽しさを知ることである。その第一歩として、幼い子はもちろん、できれば中学生にも、ぜひ、絵本の読み聞かせを親子で楽しんで欲しい。読み聞かせは、子どもたちにとって、想像の世界を広げたり、心を豊かにしたりするだけでなく、「自分のために読んでみるだけではない」という、幸せを与える時間であるから。

宮内先生は、古井小学校の校長先生で、今年度から市内の小中学校の図書館教育の推進担当をしておられます

夏休みは図書館へ

7月から9月まで、中央・東図書館とも朝9時30分の開館となります。閉館は、平日は、中央図書館 午後6時まで、東図書館 午後8時までです。
(土・日・祝日は、両館とも、午後5時15分まで)
図書館まつり(楽しい催しがいろいろ!)
東図書館 7月20日(月)～28日(火)
中央図書館 7月20日(月)～31日(金)

図書館クイズの答え

③ 六〇回です。オランダの絵本作家ディック・ブルーナの生み出したうさぎ「ナインティ」は、日本では石井桃子訳「ちいさなうさこちゃん」として1964年に出版されました。

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

三和小学校では、学習状況調査の結果をふまえ、昨年度から「書く」ことを中心に据えた授業改善を進めています。書く力を支える「言葉の力」をつけるために、「読書」は大切な活動の一つであると捉え、次のような活動に取り組んでいます。

日常活動としては、火曜日・木曜日の朝活動(八時十五分から八時三十分)を、全校読書タイムとし、各自が読みたい本を読んだり教師の読み聞かせやブックトークを行ったりしています。また、毎月第三木曜日には、地域の方や保護者による読み聞かせも行います。毎回、感謝の気持ちだけでなく、各自の感想や学んだことを伝えるために必ずお礼の手紙を書くようにしています。

今年度から、図書館で一日に借りることのできる冊数を一冊から二冊に増やしました。一冊は自分の読みたい本、もう一冊は、今学習していることに関係した本を借りるように呼びかけています。もう一つの新しい試みとして、「家読十分」を家庭学習として位置付けました。家庭での読書の習慣をどの子にも身に付けさせ、いつも身近に本がある生活にしたいと考えています。

本校では、図書委員会を中心にして六月と十月の年二回、「図書館祭り」を行っています。今年度第一回図書館祭りでは、図書委員による読み聞かせを行いました。読み聞かせをする本は、図書委員が担当学年の子に喜んでもらえるように内容を吟味して選び、休み時間を利用して読む練習をしました。他に、同じ学年



三和小学校

「親子ブックリレー」も行っています。一冊の本を通して、学年の仲間や家族で感想を交流する機会を今後も大切にしていきたいと思っています。また、先生や子どもたちの「おすすめの本」をカードに書いてもらい図書室に掲示しました。おすすめの本は、おすすめの本コーナーに展示され、いつでも借りることができるようになりました。加えて、おすすめの本を読んだら、図書委員会で作ったはがきに感想を書いて、委員会で作ったポストに投函する、はがきをもらった人は返事をポストに投函するという約束で「よくしよゆうびん」も行いました。手紙をやり取りすることが、好評で活動を継続することにしました。さらに、今年度は、地域の図書館である北部図書館と連携を図りました。通常の開館日だけでなく、図書館祭りに合わせて、特別開館をしていただきました。親子での利用を考え、学校行事が行われた日を特別開館の日を選びました。保護者の方も親子読書のための本を選んで借りていく姿も見られ、次回の実施も検討しています。

で図書委員が選んだ本を回し読み、感想を書いて交流する学年ブックリレーも行いました。期間中に2冊全員が読み切ってしまう学年もありました。同様に、期間中に「親子読書」も行いました。本校は家族で一冊本を選び、家族一人一人が感想を書く「親子ブックリレー」も行っています。一冊の本を通して、学年の仲間や家族で感想を交流する機会を今後も大切にしていきたいと思っています。また、先生や子どもたちの「おすすめの本」をカードに書いてもらい図書室に掲示しました。おすすめの本は、おすすめの本コーナーに展示され、いつでも借りることができるようになりました。加えて、おすすめの本を読んだら、図書委員会で作ったはがきに感想を書いて、委員会で作ったポストに投函する、はがきをもらった人は返事をポストに投函するという約束で「よくしよゆうびん」も行いました。手紙をやり取りすることが、好評で活動を継続することにしました。さらに、今年度は、地域の図書館である北部図書館と連携を図りました。通常の開館日だけでなく、図書館祭りに合わせて、特別開館をしていただきました。親子での利用を考え、学校行事が行われた日を特別開館の日を選びました。保護者の方も親子読書のための本を選んで借りていく姿も見られ、次回の実施も検討しています。



が好きになるように、継続している取り組みや新しい試みを常に見直しながら、今後も全職員で読書指導に取り組みしていきたいと考えています。

えほん

「おおきなきがほしい」
さとうさとる作 借成社
1000円＋税



たびに大人も子どもも胸が高鳴るところと間違いない

しです。

「おおきはおさる」
いとうひろし作 講談社
1100円＋税

物語

ぼくはおさるです。南の島に住んでいます。ぼくは島で大きくなりました。友達もたくさんできて、みんなとのんびり暮らしています。のどかで気持ちいい毎日をおくっているおさるのぼくにたいへんな事件が...
ほのぼのと癒される絵本です。この夏休み、1年生にぴったり！親子で読んでみては、いかがですか？おかあさんも楽しめます♪本が大好きになるための一歩に...



この本読んでみて!

小説

「夏の庭」 湯本 香樹実作
徳間書店1400円＋税
小学校最後の夏、



ぼくたち三人は「死んだ人が見たい」と、近所の草ぼうぼうの

家に住む今にも死にそうなおじいさんを見張ることにした。けれど、このことに気付いたおじいさんはだんだん元気になり、ぼくたちはすっかり仲良くなった。おじいさんとのこの夏の日、ぼくたちの心に深く刻まれていった...

大人向け

「ネイチャーエデュケーション」
ヨン身近な公園で子どもを夢中にさせる自然教育」長谷部 雅



自然の中へかけよう!